

エコレザー対談



吉村氏

吉村 本日は日本の靴産地・豊岡（兵庫県）で活躍されている、兵庫県靴工業組合のメーカーの皆さんにお集まり頂きました。
 地域ブランド「豊岡靴」を立ち上げ、消費者に発信するほか、学校を設けて若手の育成や職人さんの訓練も行なうなど人材教育と技術の伝承に、積極的に取り組んでおられます。
 はじめに、ご出席の皆さんの自己紹介、会社紹介からお願いします。

特産の柳行李やなぎしんりから始まり
 近年は自社ブランドの展開も

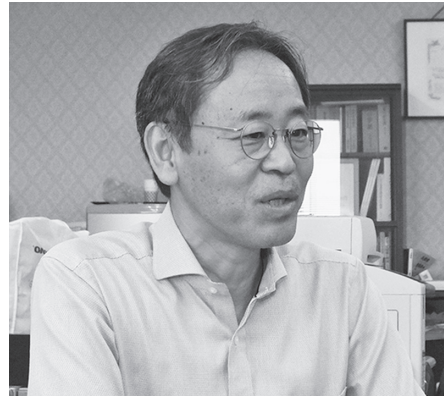
橋本 1963年に父親が創業した会社で、当時は胴体にはポル紙を使ったスーツケースを製造していました。ドルシヨックを境に袋物に変更し、今は自社工場内で一貫生産し、商品検査には厳しく取り組んでいます。
 PB（プライベートブランド）に「オートロッシン」があります。
植村 柳行李の製作から始まり、今年で103年目を迎えます。以前は箱ものが主でしたが、バブル以降需要が落ち込み、ブリーフケース、ダレスバッグや財布小物も手掛けながら、靴をトータルに作るメーカーを目指しています。

地域ブランド「豊岡靴かほん」を
 消費者に発信、
 技術向上と人材育成に努める





植村氏



橋本氏



カバンストリートのランドマークとなっている「トヨオカ カバンアルチザンアベニュー」



アルチザンアベニュー1Fの豊岡鞆ショップ

由利 当社は約90%がOEMで、10%がPB「アートフィア」です。国内のほかにベトナムに自社工場があり、ニーズに合わせて使い分けをしています。

業界では中国生産が主流ですが、国内工場をしっかりと維持することが非常に重要だと考えています。

足立 鞆の材料卸からスタートしており、私は3代目です。今日では、材料の供給のほかに鞆の製造も手掛けるようになり、売上げは半々くらい。

組合が地域ブランドを取得したことをきっかけに組合に加入し、いまでは毎日わくわくしながら楽しく活動させてもらっています。

羽倉 創業56年になります。父が始めた会社で、当初は材料商で、後にメーカーになりました。

3年前まではOEMが主力で、今はランドセルを中心に自社ブランドの販売に全精力を注いでいます。

地域ブランド「豊岡鞆」で産地・豊岡をアピール

吉村 皮革業界の皆が注目している地域ブランド「豊岡鞆」ですが、立ち上げにはご苦労があったかと思いますが、きっかけからお聞か

せ下さい。

植村 バブル崩壊後、海外生産が急速に進み、国内メーカーへの受注量が減って来ました。国内の間屋さんをメインに供給してきた私達のようなメーカーは、間屋注文がどんどん減り、困っていました。

その頃、2005年ですが、地域ブランドの商標登録ができるようになるという情報が入り、取得に動き出しました。

吉村 地域ブランドを取得しようと思った目的は、どういったことでしたよ？

植村 豊岡が鞆の産地であることは、業界内では知られていますが、全国の消費者はもちろん、関西でも知られていませんでした。これまで、消費者に発信してこなかったのです。

そこで、この機会に地域商標を取ろうと考えたのです。

組合内では、メーカーが地域商標を取ってどうするの、という声もありましたが、1年間をかけて、内々に商標取得準備を進めました。そして最後の最後に、「豊岡鞆」



由利氏



足立氏

というブランドを作りたい旨を決議にかけ、すんなり決まりました。

吉村 地域ブランドを取得してからも、紆余曲折があったかと思いますが。

足立 ブランドとしての統一感がないといった声があったので、取得2年後の2008年に、豊岡靴の統一ブランドとして「マリオネット ジョーンズ」を作りました。しかし、芳しくなかった。

そこで、商品では箱ものからカジュアルまで、価格的にも幅広く、各社の一番得意とするものを「豊岡靴」として打ち出しました。

このことが百貨店のイベントで評価されました。このイベントは年間30回以上、今日も継続的に開催しています。

お客さまに信頼される靴を作るのが哲学

稲次 「豊岡靴」の哲学、コンセプトとはどのようにですか？

植村 当初、議論になったのは、組合員全員が使えるよう、しぼりの

緩いブランドにするのか、あるいは高付加価値を備え、厳密な決まりのあるブランドにするのかということでした。

しかし、豊岡はしっかりと商品が作れる産地であることをアピールできなければ、将来は無いという結論に至り、技術の優れた企業であり、信頼される靴が作れることを「豊岡靴」の哲学にしました。

そして、企業をまず認定し、その上で商品を認定するというダブルチェックで、「豊岡靴」をブランド化しようと考えました。



豊岡まちづくり株式会社が運営する「トヨオカカバンアルチザンスクール」の様子

稲次 コンセプトを決定するにも賛否両論があったかと思いますが。

植村 そうですね。そんなに厳しくして、「豊岡靴」を使える会社が数社だったかどうかするの、うちは豊岡で生産しているのに、なぜそのブランドが使えないのか、などの意見が出ました。

しかし、厳しくすることで、いずれは産地が良くなり、ものづくりのレベルが向上すると考え、頑として貫くことにしました。

「豊岡靴」認定審査は技術レベルのアップになった

稲次 「豊岡靴」の商品認定は、どのように行われますか？

足立 審査会は2カ月に1回で、今は組合員の他に、外部の審査員も加えています。そして全員が合格を出さないと「豊岡靴」に認定されません。

1点1点に厳しいコメントを書きますが、認定できなかったものについては、「こういう具合に改良したらどうだろうか」、「こう作ったらきれいに出来るのでは」とい



稲次氏



羽倉氏

うアドバイスもします。

こうすることで、豊岡の技術レベルが上がリ、豊岡の靴業界全体の底上げを狙っています。

由利 「豊岡靴」のタグの付いた商品は、「ウールマーク」のように厳しい審査をクリアした商品であり、品質を担保するものです。

当社は自社ブランドを前面に出してはいますが、「豊岡靴」のタグも付けてダブルネームにしています。タグは自社ブランドへの信頼面でもプラスになります。

橋本 「豊岡靴」の認定商品であることは品質保証につながり、お客さんに信頼してもらえますね。

製品を認定審査に出し、同業者でもある審査委員に見てもらったことで、厳しい指摘をいただき、修正して次の商品づくりにつなげていきます。

ここで鍛えられることで、会社が成長していくわけで、ありがたいシステムだと思っています。

羽倉 当社も自社ブランドと「豊岡靴」のタグのダブルネームで供給しています。

審査については、商品のカテゴリーによつて、審査ランクが分けられてもいいと考えています。ハードな靴と口元を縫っただけの巾着とは、同じレベルでは審査できないからです。

今後は「豊岡靴」を世界中に知らせたい

吉村 「豊岡靴」の地域ブランド事業について、今後どのような方向に持っていく考えでしょうか。

橋本 今は東京で年2回の展示



豊岡K-site 合同会社が運営する靴縫製者トレーニングセンターの風景

会を開催していますが、これにさまざまなイベントを加え、もっと一般消費者にPRする場にしたいと考えています。

展示会は昨年から香港の見本市にも参加していますが、今年はイタリヤ・ミラノの「ミペル」にも出展して良さを伝えていきたいと考えています。

植村 今進めているのは、直営店K-ITTE(キツエ丸の内店)に続いて、空港などでの売場出店をめざします。そこで世界に向けて「豊岡靴」を発信していきたい。

各社のブランドが有名になるとが最終的な目標であつて、「豊岡靴」は品質保証を下支えするブランドでいいと思っています。

由利 今後、人口の減少で国内市場は縮小していくでしょう。

世界の工場である中国でも廃業が進んでいるという時代です。

そんな中で、日本の豊岡は厳しい品質基準で靴を作る産地だと知らしめることで、世界中からOEM発注があるよう、インバウンドの人たちにも、「日本の豊岡靴」を刷り込んで行きたいですね。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値以下
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



<http://japan-ecoleather.jp>



東京駅前KITEビルの1階に出店した豊岡鞆KITE丸の内店

学生と職人の両輪で 人材教育を進める

吉村 組合では人材育成の取り組みについても積極的です。この点についてもお聞きかせください。

由利 “産業観光”という言葉が出始めた2014年、豊岡の城崎温泉と鞆産業で何か一緒に事業ができないかと、市内宍田町の“カバンストリート”の真ん中にあるビルを改装して、オフィシヤ

ルショップをつくりました。

次に出てきた問題が、人材を育てる場所がないということで、サンプルを作る学生を育てようということになりました。

同時に縫製技術を教える場所も必要になりました。

今日、「トヨオカカバンアルチザンスクール」は豊岡まちづくり株式会社が運営し、「鞆縫製者トレーニングセンター」は豊岡K・Site合同会社が運営しています。

羽倉 鞆縫製者トレーニングセンターは今年で6年目になります。訓練期間は4カ月で、これまで100人を超す修了者があり、大半の人が豊岡で働いています。就職斡旋も行い、参画企業に均等に就業しています。

アルチザンは今年が6年目で、定員は10名の少数精鋭の教育機関です。ほとんど県外の人ですが、8割ほどは豊岡のメーカーに就職しています。

メーカーもアルチザン卒業生を欲がっています。

「豊岡鞆」の哲学に合致する 日本エコレザーのものづくり

稲次 「豊岡鞆」の哲学に、“安心感”と持つ喜びを、お客さまに提供する“とあります。

安心して使っていただくために、革製については、日本エコレザー認定タグを付けられてはいいかでしょうか？

お客さまからこの使っている革は大丈夫なのと聞かれたときも、認定を受けた革については、有害化学物質の検査をクリアしたものですから、安心・安全と言い切れます。

由利 日本エコレザーの名前は聞いていましたが、内容について初めて耳にしました。

質問ですが、認定された革であれば、このタンナーが作った革なのか分かりますか？

吉村 分かります。認定タグの裏にはタンナーを特定できる認定番号が付いており、(一社)日本皮革産業連合会のHPに掲載された番号からタンナーが特定できます。